

27・29・30・31層は、墳丘の盛土の再堆積土層と思われる。

26・32～34層については、32層については列石直下の層で、小礫を含むよくしまった層である。33層については溝底まで続いていることから、墳丘築造時に一旦地山まで掘り込んだ後、フラットな面を形成するための盛土層であると考えられる。26層はよくしまった層で、墳丘の盛土が流れないための土止めの層であると思われる。

以上より、墳端より外側で検出した溝については、幅が広く、1トレンチで対岸の立ち上がりを確認できなかったことや、一旦掘り込んだ後整地していることから、尾根から墳丘基底部分を方形に削り出すための遺構であると考えられる。

鷹塚 6トレンチ (第32図)

墳丘の規模、平面形態、周溝の確認を目的として、墳丘の北側に長さ6.6m、幅1.5mのトレンチを設定した。

調査の結果、トレンチ墳丘側は、土抗、現代の攪乱層などによって葺石の確認はできなかった。しかし、近世の石組の水路に上部が一部切られているもののトレンチ北側で東西に直線的に伸びる墳端の列石が確認された。この列石は7トレンチ、8トレンチにおいても検出された。

土層の堆積状況は、1～5・8～10層は表土及び攪乱層である。11層は暗褐色土の近世の整地層である。

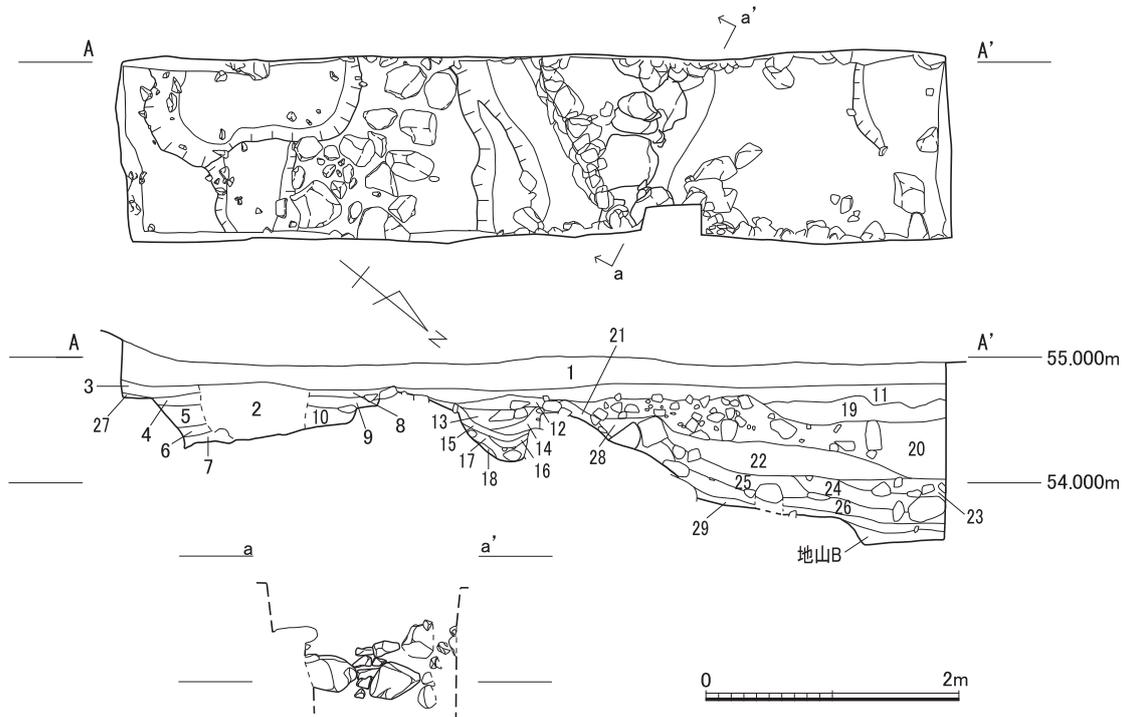
12～18黒色・黒褐色層は近世の溝（水路）の埋土である。19～22層は拳～人頭大の礫を含んだ中世の整地層である。21層のにぶい黄褐色土を除いて暗褐色でしまりが無くシルト質の土が堆積している。23層は10～15cmの礫を含んだ黒色層で墳丘盛土の再堆積土とみられる。同じく24～26層も23層と同様に墳丘盛土の再堆積層である。27～28層の黒褐色層は墳丘盛土と考えられ、29層の極暗褐色土は、墳端の列石の下に潜り込んでいることから、墳丘築造時の盛土であると考えられる。

鷹塚 7トレンチ (第33・34図)

墳丘の平面形態や周溝確認を目的として、墳丘西北側に長さ10.8m、幅1.5mのトレンチを設定した。

調査の結果、トレンチ西側の墳丘部分は、一部近世以降に削平及び整地されていたが、トレンチ中央よりやや西側では南北に走る墳端の列石と溝状遺構を検出した。

土層の堆積状況は、1～4層は表土及び攪乱層である。5～9層は溝の埋土で、全体的にしまりはなく、シルト質の土が堆積する。自然堆積で底には若干砂が堆積していたため、水路として利用したものと考えられる。水路の底から13cの白磁、近世陶磁器が出土した。10・11・13・14層は中世の整地層で4・10・13・14・15層の上面は、中世の遺構検出面である。14層のみ締りが強い。15層は黒褐色で礫を多く含む。16層及び19・20層上面は中世の文化面である。いずれも列石以東に堆積する。19層のみ黒褐色で他は黒色を呈する。20層はレンズ状に堆積する。2～5cm程度の小石を敷き詰め、固く締まり道の様相を呈す。19層から鎌倉時代以降の遺物が出土している。17層黒色土、18層黒褐色土は墳丘盛土の再堆積土層である、22層は、にぶ



1 黒褐色	(Hue5YR 2/1)	表土	しまり有り。粒子は細かい。シルト土。針金や袋等の現代遺物を含む。
2 黒色	(Hue7.5YR 2/1)	攪乱	しまり無し。粒子は細かい。シルト土。電柱による現代の攪乱。
3 暗褐色	(Hue10YR 3/4)		しまり表土よりしまり無し。粒子は細かい。シルト土。黄色いブロックを多く含む。土坑内の埋土。
4 明黄褐色	(Hue10YR 6/6)		23よりややしまり有り。粒子は細かい。シルト土。黄色いブロックが一部に集中してある。土坑内の埋土。
5 黒褐色	(Hue10YR 3/1)	表土	しまり有り。粒子は細かい。シルト土。少量の黄色いブロックを含む。土坑内の埋土。
6 黒褐色	(Hue10YR 3/1)		しまり無し。粒子は細かい。シルト土。1cm程のブロックを含む。土坑内の埋土。
7 黒色	(Hue10YR 3/1)	墳丘盛土	しまり有り。粒子は細かい。礫は含まず。土坑の底となる。墳丘盛土の可能性。
8 黒褐色	(Hue7.5YR 3/1)		表土と同じくらいしまり有り。粒子は細かいシルト土。黄色いブロックを含む。10~20cm程の礫を含む。土坑(石捨場)による埋土層と思われる。
9 黒褐色	(Hue10YR 3/1)		しまり有り。粒子は細かい。シルト土。黄色いブロックを含む。10~20cm程の礫を含む。
10 にぶい黄褐色	(Hue10YR 7/4)		しまり有り。粒子は細かい。20よりも黄色いブロックを含む。10~20cmの礫を含む。
11 暗赤褐色	(Hue7.5YR 3/2)		赤土の層。1よりもしまり有り。やや粗い粒子。シルト土。近世の整地によって堆積した層。近世の陶磁器を含み、全体的にマンガンを含む。
12 黒褐色	(Hue7.5YR 3/2)		しまり有り。細かい粒子のシルト土。細かい粒子のシルト土。20cm弱の礫を含む。溝内の埋土。
13 黒褐色	(Hue7.5YR 3/1)		12よりもややしまり無し。細かい粒子のシルト土。25cm程の礫を含む。溝内の埋土。
14 黒褐色	(Hue7.5YR 2/2)		12よりもややしまり有り。細かい粒子のシルト土。土器を含む。溝内の埋土。
15 黒褐色	(Hue10YR 2/2)		12よりもしまり無し。細かい粒子のシルト土。近世の陶磁器を含む。
16 黒色	(Hue7.5YR 2/1)		12よりもしまり無し。細かい粒子のシルト土。5~15cm程の礫を含む。溝内の埋土。
17 黒色	(Hue7.5YR 2/1)		12よりもしまり無し。粒子は粗い砂質土。溝の壁に当たる部分。2cm程の黄色いブロックを含む。
18 褐灰色	(Hue7.5YR 6/1)		12よりもしまり無し。粒子は細かい。シルト土。
19 暗褐色	(Hue7.5YR 3/3)		しまりは1より無く、細かい。シルト土。中世の整地層。
20 暗褐色	(Hue10YR 3/3)	中世整地層	1よりややしまり無し。細かい粒子のシルト土。拳丈~人頭大の礫を多く含む。中世の整地層。
21 にぶい黄褐色	(Hue10YR 6/4)	中世整地層	1よりややしまり無し。細かい粒子のシルト土。
22 黒色	(Hue10YR 1.7/1)	中世整地層	しまり無し。細かい粒子のシルト土。中世の整地層。
23 黒色	(Hue7.5YR 2/1)	盛土流土	しまり無し。細かい粒子のシルト土。10~15cm程度の礫を含む。
24 黒色	(Hue5YR 1.7/1)	盛土流土	しまり無し。細かい粒子のシルト土。2~5cm程度の礫を含む。白い粒子が30cm程度の幅で集中的に見られる。
25 黒褐色	(Hue5YR 2/1)	盛土流土	しまり無し。細かい粒子のシルト土。墳丘から流れた自然堆積層。
26 黒褐色	(Hue7.5YR 2/2)	盛土流土	ややしまり有り。細かい粒子のシルト土。人頭大の礫を少数と土器を含む。
27 にぶい黄褐色	(Hue10YR 6/4)	墳丘盛土	しまり無し。粒子は細かい。シルト土。盛土の可能性あり。
28 黒褐色	(Hue7.5YR 2/2)	墳丘盛土	1よりしまり無し。細かい粒子のシルト土。墳丘盛土。
29 極暗褐色	(Hue7.5YR 2/3)	築造時盛土	しまり有り。粒子はやや粗い。シルト土。
地山 褐色	(Hue10YR 4/4)	地山	しまり有り。粒子はやや粗い。やや砂質。2~3cm程度の礫を含む。

第32図 鷹塚6トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

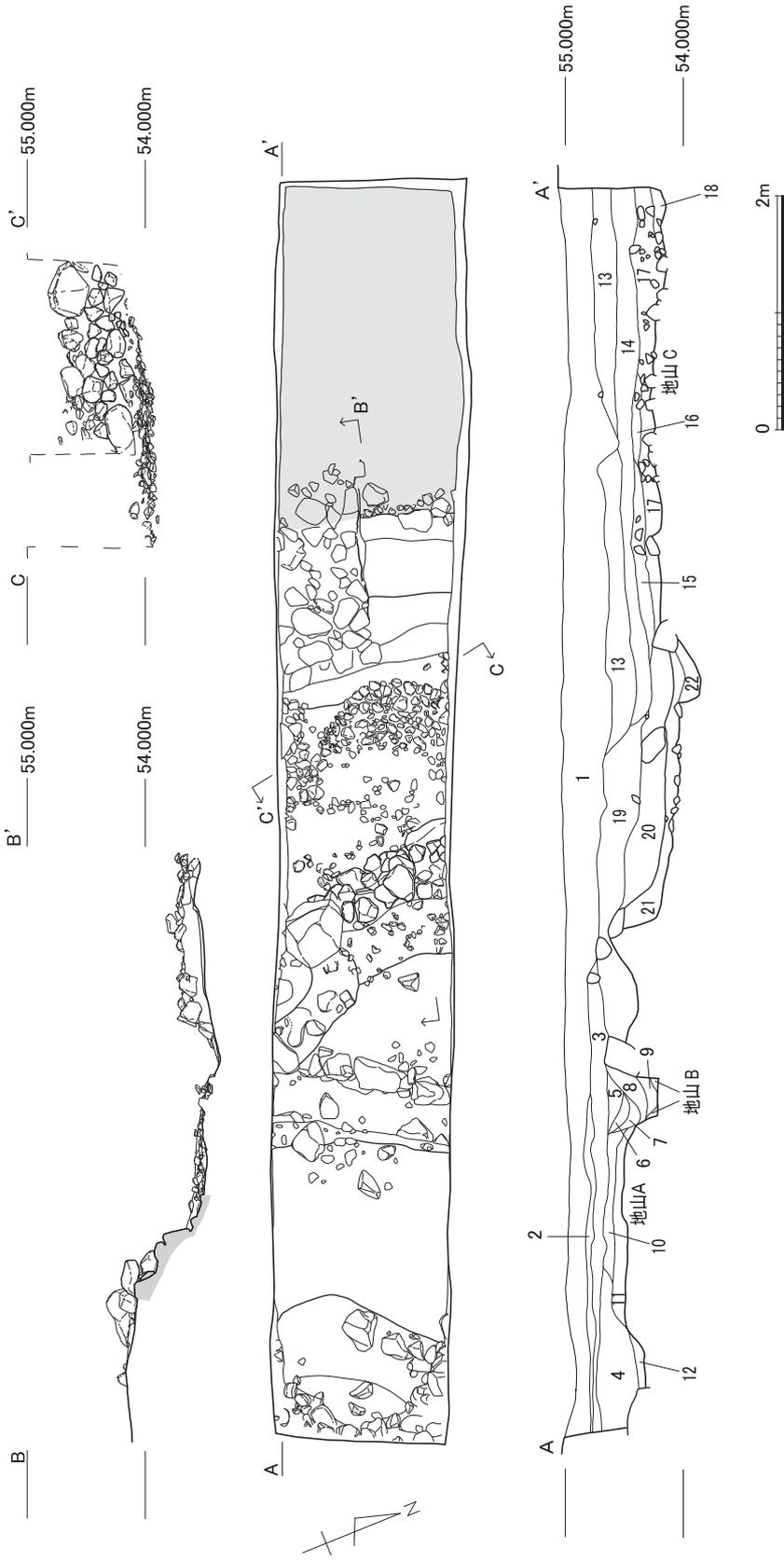
い黄橙色土および黒色土の混和土である。

出土遺物は、第34図1の土師器杯の口縁から体部までの破片のみである。やや内湾した口縁から体部にむけて丸みを帯びる。調整は内外面ともミガキを施す。赤褐色をしており、焼成は良好である。

鷹塚 8トレンチ (第35図)

6・7トレンチで検出した墳端の列石が、どのように接続するかを確認するため、両トレンチの間に上辺2.25m、幅2.9m、下辺3.75mの台形のトレンチを西北方向に設定し調査を実施した。

調査の結果、トレンチ南東側から1.8mの地点で、30~50cm程度の石を並べた墳端の列石を検出した。この列石は、6トレンチと同様に東西に走っているが、南方向に若干丸みを帯びている。さらに、7トレンチでは南北に走る列石が検出されていることから、8トレンチの南側から0.7m付近が墳丘北西側の角になると考えられる。また、列石下の床面は、北西に向かって緩やかに



第33図 鷹塚7トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

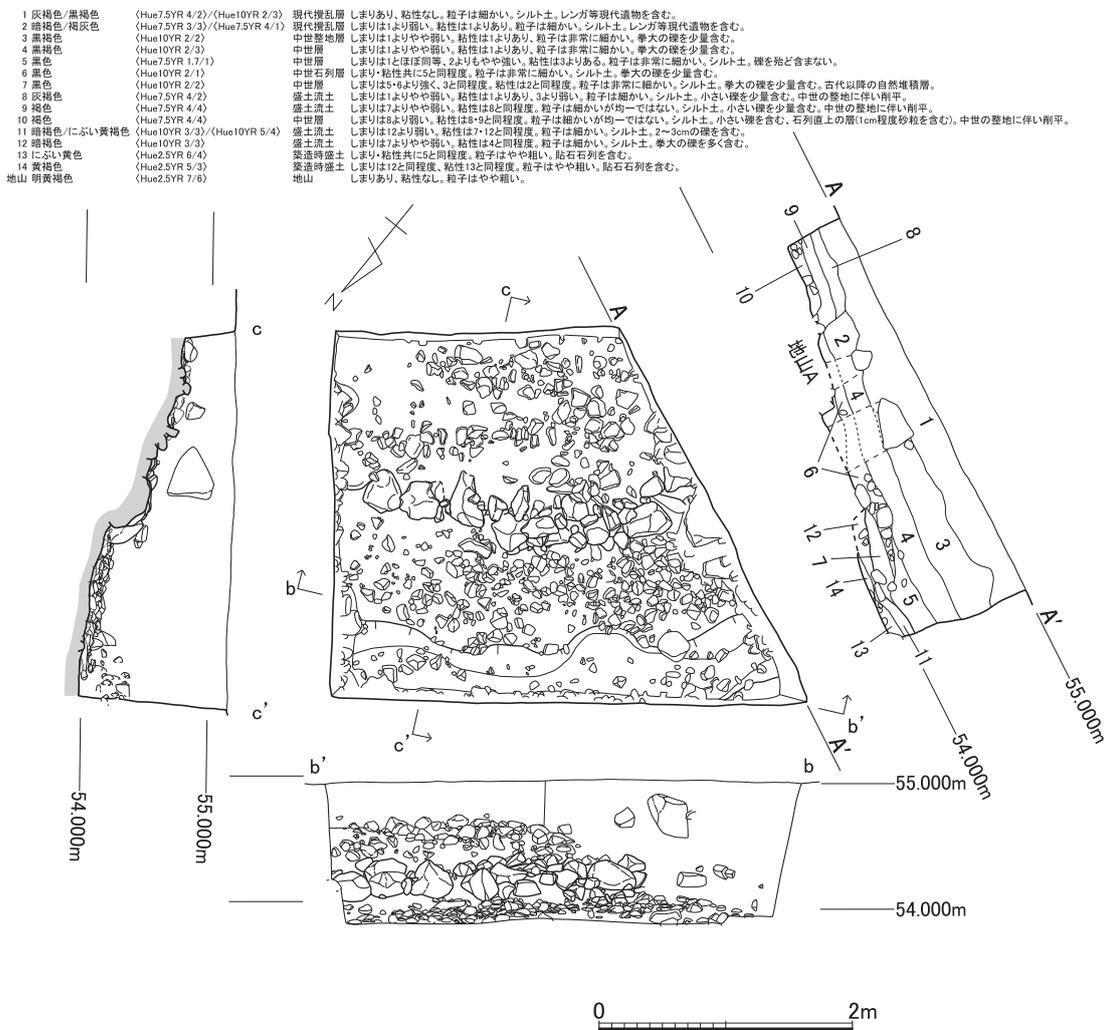


第34図 鷹塚7トレンチ出土遺物 (1/4)

表土
 1 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。石が多く、粒子が細かい。
 2 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。一部赤色土層を含む。
 3 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。
 4 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。やや粒子が細かい、中世の薄中の自然堆積層。
 5 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。5より粒子が細かい、中世の薄中の自然堆積層。
 6 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 7 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 8 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 9 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 10 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 11 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 12 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 13 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 14 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 15 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 16 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 17 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 18 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 19 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 20 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 21 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。
 22 しまり有り、粘性若干なし、シルト土。中世の薄中の自然堆積層。5より粒子が細かい。

傾斜し、傾斜部分に拳大の石を敷き詰められていた。

土層堆積状況としては、1層の褐灰色/暗赤褐色/暗褐色、2層の極暗褐色は、レンガ等を含む現代攪乱層（6トレンチで確認された近世の整地層は7、8トレンチでは確認されていないことから現代の削平によって消滅か）、3層は、黒褐色の中世整地層であり、しまりは強い。3層のみ拳大の石を少量含む。4・5・6層は、黒色の中世層で礫が少ないことから中世の文化面である。4層では7トレンチから続く中世の道を検出した。7層は、黒褐色で古代以降自然堆積層であると考えられる。9層は、にぶい黄褐色で墳丘盛土流れ込みの層である。10層は、褐色で墳丘端の石列直上であるが、中世の整地に伴ない削平されている。11・12層は、暗褐色のシルト土で、墳丘盛土の流れ込みの層である。13層のにぶい黄褐色と、14層の黄褐色は、小礫を含む層で、墳丘築造時の整地土である。15は明黄褐色の拳～人頭大の石を含む地山である。



第35図 鷹塚8トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)

鷹塚 9トレンチ (第36・37図)

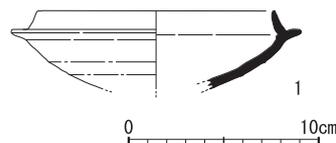
墳丘の平面形態と立体構造を確認するため、古墳の石室開口部から軸線上で対になる北側墳丘部分に長さ7.0m、幅1.0mの調査区を設定した。

調査の結果、9トレンチでは2段の列石が確認された。1段目の列石は、トレンチ北側から2.3mの所で検出された墳端の列石である。2段目は、トレンチ南端で検出した列石で、列石より北側に幅1.8mのテラスが確認できることから、段築の基底部の列石となると考えられる。この1段目から2段目までの立ち上がりに関しては、後にサブトレンチを設けて堆積状況を確認した。

2段目列石墳丘側の土層の堆積状況について南壁面(D-D')土層図から、列石より上部は、締めりはなく粘質も弱い。1層目には拳大の礫も混ざっていることから、列石より上層は墳丘盛土の流れ込みであると考えられる。列石より下層については、黄褐色の土でしまりが強い。東壁面(A-A')土層の1～4層と、西壁面(B-B')の1～4層までは、表土及び攪乱層で、A-A'壁面5・6・8・9層、B-B'壁面5・6・7層は墳丘盛土の流れ込みである。墳端の列石より下層(A-A'の10層、B-B'の17・19・20層)は、強い締めりもあり墳丘築造の際の盛土と考えられる。また、2段の列石は平行関係にあり、墳丘北側の平面形態を知ることができる。

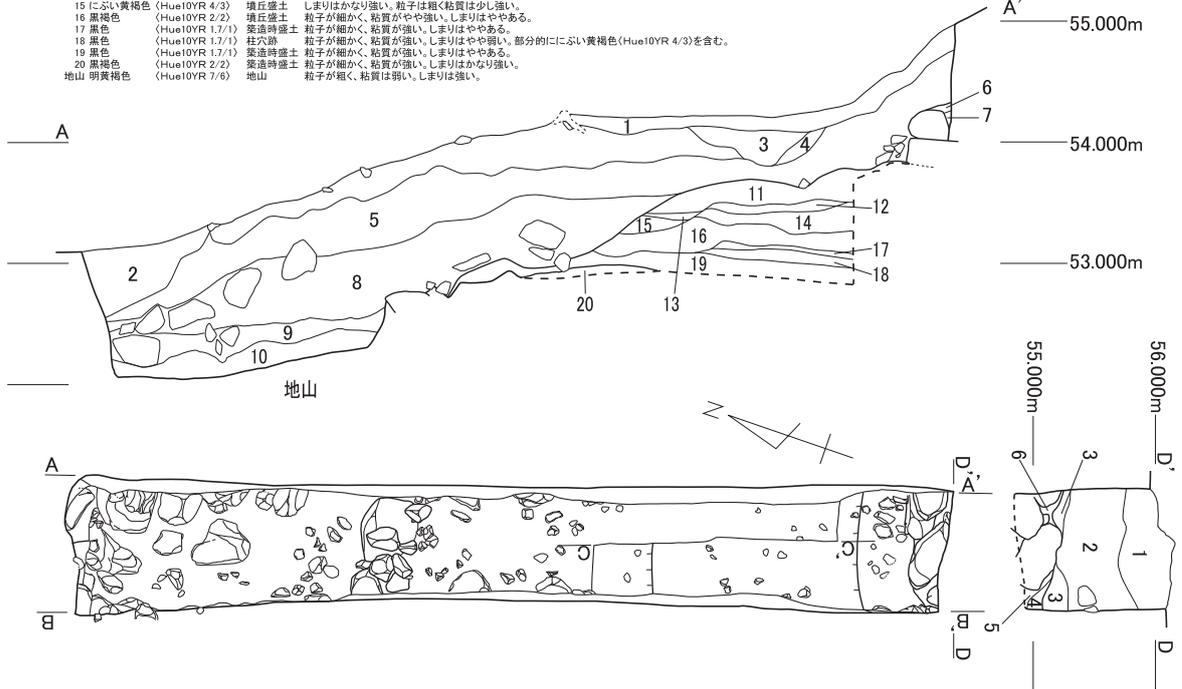
また、列石1段目から2段目にかけての立ち上がり部分の構築状況を確認するため、墳丘に、長さ2.0m、幅0.5mのサブトレンチを設け、墳丘の積み土状況を観察した(C-C'土層)。土層の堆積状況は、全体的にほぼ平行に堆積している。7層の強く締まった盛土が確認され、2段目列石以降も続くとみられる。上層から1にぶい黄色土、2層の黒褐色土、3層の黒褐色土(部分的に4層の褐色土を含む)、4層の褐色土、5層の黒褐色土(にぶい黄褐色土含む)、6層の黒褐色土となり、いずれも締めりが強い。このほぼ平行に堆積している層群が1段目の段築のテラス部分になると考えられる。

出土遺物は、第36図1にある須恵器杯身の口縁から体部までの破片である。口縁の立ち上がりは短く、端部は段がなく丸い。外面調整は、口縁部から体部上位にかけて回転ナデを施し、体部下位は回転ヘラケズリの後ナデを施す。内面調整は、回転ナデである。褐灰色をしており、焼成は良好である。時期は、TK43型式並行期であると考えられる。



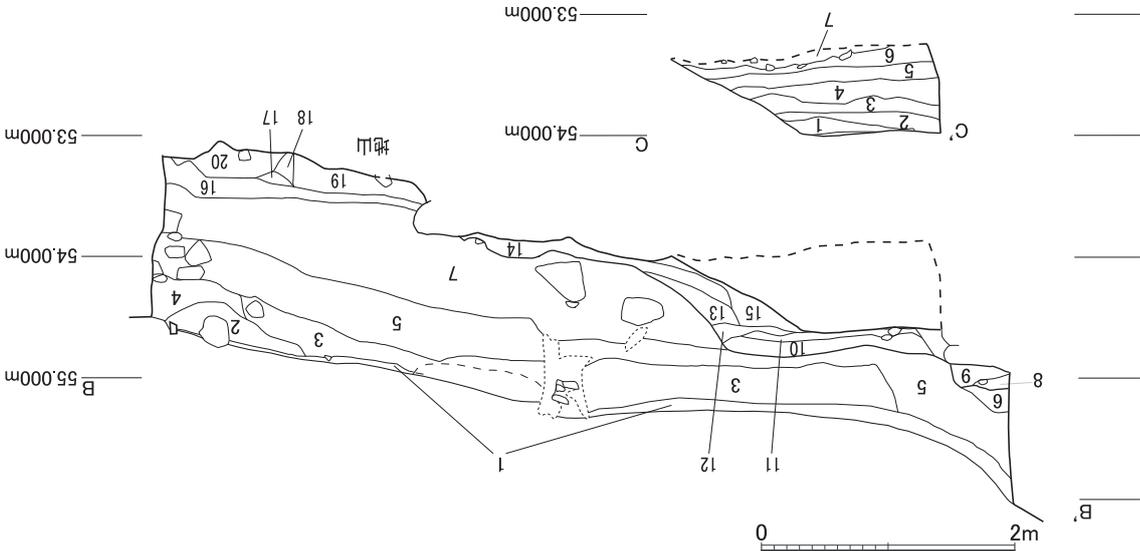
第36図 鷹塚9トレンチ出土遺物(1/4)

1	黒褐色	(Hue10YR 2/2)	表土層	粒子は細かい、しまりはなく、少し粘質あり。	
2	黒褐色	(Hue7.5YR 3/2)	攪乱層		
3	黒褐色	(Hue7.5YR 3/2)	腐植	粒子は細く、しまりもない。竹の根が入り込んでいる。粘質も弱い。こぶし丈の礫が多い。	
4	暗褐色	(Hue10YR 3/2)	盛土流土	粒子は細かい、粘質は弱い。大きい礫を含む。	
5	黒褐色	(Hue10YR 3/1)	盛土流土	しまりややあり、粘質はない。全体的にふい黄褐色(Hue10YR4/3)を含む層で黄褐色土は固く粘質はない。南側壁面土層図の31に対応。	
6	黒褐色	(Hue10YR 2/2)	盛土流土	粒子が細かく、粘質は強い。しまりも強い。	
7	黒褐色	(Hue10YR 4/3)	墳丘盛土	しまりややあり、粘質は弱い。墳丘盛土である。南側壁面土層図の41に対応。	
8	にふい黄褐色	(Hue10YR 4/3)	墳丘盛土	しまりが強い。粘質は弱い。石列にかんている層で、墳丘盛土である。版築の始まりの層と考えられる。南側壁面土層図の51に対応。	
9	にふい黄褐色	(Hue10YR 5/4)	墳丘盛土	粒子が細く、粘質は強い。しまりは強い。	
10	にふい黄褐色	(Hue10YR 4/3)	墳丘盛土	粒子は細く、粘質は弱い。しまりは強い。	
11	黒褐色	(Hue10YR 2/2)	墳丘盛土	粒子は、7より細かいが、しまりが弱く、粘質も弱い。	
12	黒褐色	(Hue10YR 3/2)	墳丘盛土	粒子が細かく、粘質は弱い。しまりもあるが少し強い。	
13	黒褐色	(Hue10YR 2/3)	墳丘盛土	しまりはややある。粘質はやや強い。粒子は固く小礫を含む。	
14	にふい黄褐色	(Hue10YR 4/3)	墳丘盛土	しまりはかなり強い。粒子は細く粘質は少し強い。	
15	黒褐色	(Hue10YR 2/2)	墳丘盛土	粒子が細かく、粘質がやや強い。しまりはややある。	
16	黒色	(Hue10YR 1/1)	築造時盛土	粒子が細かく、粘質が強い。しまりはややある。	
17	黒色	(Hue10YR 1/1)	土流	粒子が細かく、粘質が強い。しまりはややある。部分的ににふい黄褐色(Hue10YR 4/3)を含む。	
18	黒色	(Hue10YR 1/1)	築造時盛土	粒子が細かく、粘質が強い。しまりはややある。	
19	黒褐色	(Hue10YR 2/2)	築造時盛土	粒子が細かく、粘質が強い。しまりはかなり強い。	
20	地山	明黄褐色	(Hue10YR 7/6)	地山	粒子が細く、粘質は弱い。しまりは強い。



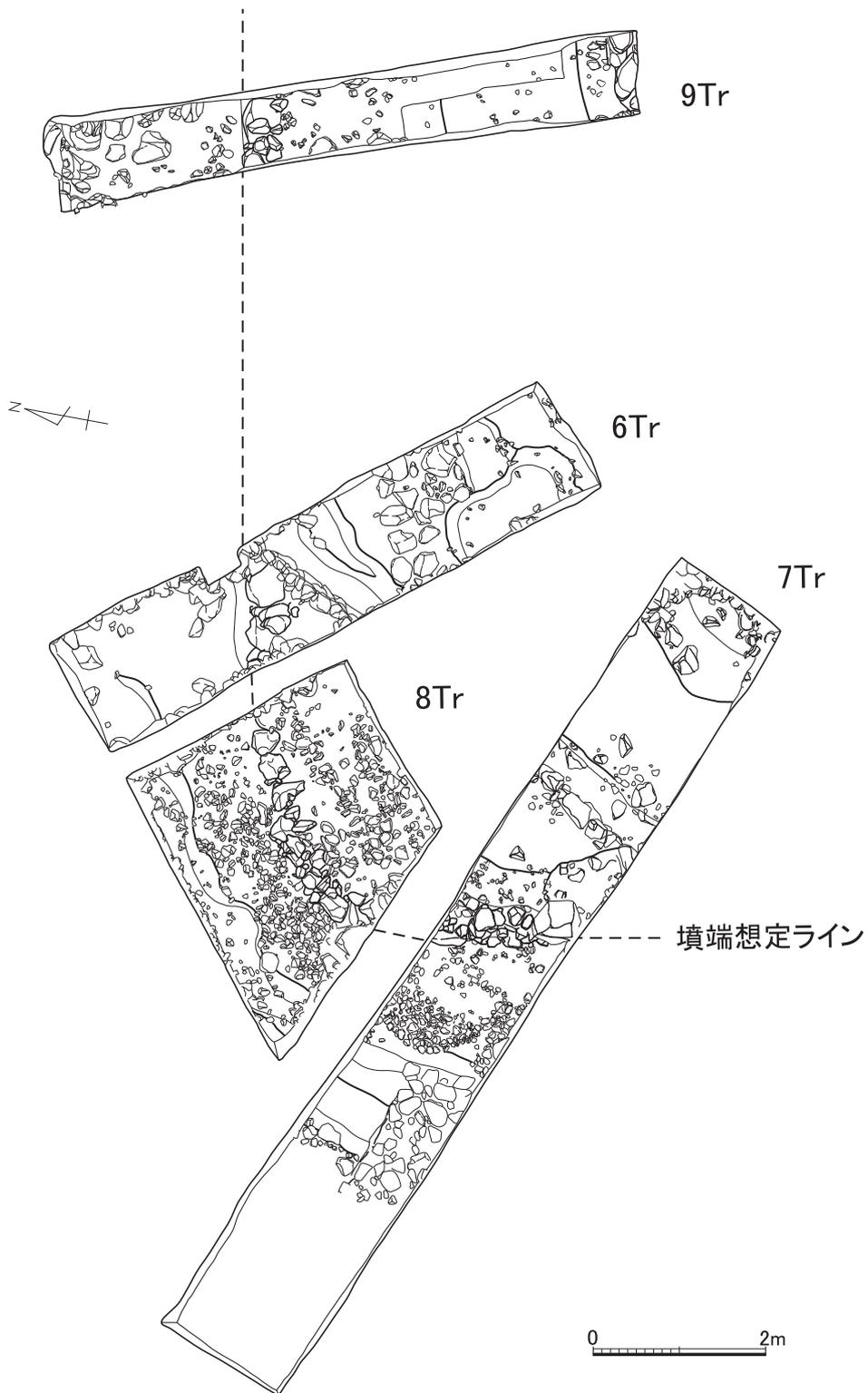
1 にふい黄褐色 (Hue10YR 4/3) 墳丘盛土 粒子は細く、粘質は弱い、しまりは強い。
 2 黒褐色 (Hue10YR 3/1) 盛土流土 粒子は細かい、粘質は弱い、しまりもあるが少し強い。
 3 黒褐色 (Hue10YR 3/2) 盛土流土 2色土流りの層。粒子が細かく、粘質はややあり、しまりはかなり弱い。
 4 暗褐色 (Hue10YR 4/3) 盛土流土 粒子は細く、粘質は弱い、しまりも強い。
 5 黒褐色 (Hue10YR 4/3) 盛土流土 粒子は細く、粘質は弱い、しまりは強い。
 6 黒褐色 (Hue10YR 2/2) 盛土流土 粒子は細く、粘質は弱い、しまりは強い。

1 黒褐色 (Hue10YR 2/2) 表土層 粒子は細かい、粘質は弱い、しまりはなく、少し粘質あり。
 2 黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) 攪乱層
 3 黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) 腐植 粒子は細く、しまりもない。竹の根が入り込んでいる。粘質も弱い。こぶし丈の礫が多い。
 4 にふい黄褐色 (Hue10YR 3/2) 盛土流土 粒子は細かい、粘質は弱い。大きい礫を含む。
 5 黒褐色 (Hue10YR 3/1) 盛土流土 しまりややあり、粘質はない。全体的ににふい黄褐色(Hue10YR4/3)を含む層で黄褐色土は固く粘質はない。南側壁面土層図の31に対応。
 6 黒褐色 (Hue10YR 2/2) 盛土流土 粒子が細かく、粘質は強い。しまりも強い。
 7 にふい黄褐色 (Hue10YR 4/3) 墳丘盛土 しまりややあり、粘質は弱い。墳丘盛土である。南側壁面土層図の41に対応。
 8 にふい黄褐色 (Hue10YR 4/3) 墳丘盛土 しまりが強い。粘質は弱い。石列にかんている層で、墳丘盛土である。版築の始まりの層と考えられる。南側壁面土層図の51に対応。
 9 にふい黄褐色 (Hue10YR 5/4) 墳丘盛土 粒子が細く、粘質は強い。しまりは強い。
 10 にふい黄褐色 (Hue10YR 4/3) 墳丘盛土 粒子は細く、粘質は弱い。しまりは強い。
 11 黒褐色 (Hue10YR 2/2) 墳丘盛土 粒子は、7より細かいが、しまりが弱く、粘質も弱い。
 12 黒褐色 (Hue10YR 3/2) 墳丘盛土 粒子が細かく、粘質は弱い。しまりもあるが少し強い。
 13 黒褐色 (Hue10YR 2/3) 墳丘盛土 しまりはややある。粘質はやや強い。粒子は固く小礫を含む。
 14 にふい黄褐色 (Hue10YR 4/3) 墳丘盛土 しまりはかなり強い。粒子は細く粘質は少し強い。
 15 黒褐色 (Hue10YR 2/2) 墳丘盛土 粒子が細かく、粘質がやや強い。しまりはややある。
 16 黒色 (Hue10YR 1/1) 築造時盛土 粒子が細かく、粘質が強い。しまりはややある。
 17 黒色 (Hue10YR 1/1) 土流 粒子が細かく、粘質が強い。しまりはややある。部分的ににふい黄褐色(Hue10YR 4/3)を含む。
 18 黒色 (Hue10YR 1/1) 築造時盛土 粒子が細かく、粘質が強い。しまりはややある。
 19 黒褐色 (Hue10YR 2/2) 築造時盛土 粒子が細かく、粘質が強い。しまりはかなり強い。
 20 地山 明黄褐色 (Hue10YR 7/6) 地山 粒子が細く、粘質は弱い。しまりは強い。



地山 明黄褐色 (Hue10YR 7/6) 地山 粒子が細く、粘質は弱い、しまりは強い。
 20 にふい黄褐色 (Hue10YR 4/3) 墳丘盛土 粒子は細く、粘質は弱い、しまりは強い。
 19 黒褐色 (Hue10YR 3/1) 盛土流土 粒子は細かい、粘質は弱い、しまりもあるが少し強い。
 18 黒褐色 (Hue10YR 2/2) 盛土流土 粒子は細かい、粘質は弱い、しまりもあるが少し強い。
 17 にふい黄褐色 (Hue10YR 5/4) 墳丘盛土 しまりややあり、粘質は弱い。墳丘盛土である。南側壁面土層図の41に対応。
 16 暗褐色 (Hue10YR 4/3) 盛土流土 粒子は細く、粘質は弱い、しまりも強い。
 15 黒褐色 (Hue10YR 3/1) 盛土流土 しまりややあり、粘質はない。全体的ににふい黄褐色(Hue10YR4/3)を含む層で黄褐色土は固く粘質はない。南側壁面土層図の31に対応。
 14 黒褐色 (Hue10YR 2/2) 盛土流土 粒子が細かく、粘質は強い。しまりも強い。
 13 黒褐色 (Hue10YR 2/3) 盛土流土 しまりはややある。粘質はやや強い。粒子は固く小礫を含む。
 12 黒褐色 (Hue10YR 3/2) 盛土流土 粒子は、7より細かいが、しまりが弱く、粘質も弱い。
 11 にふい黄褐色 (Hue10YR 4/3) 墳丘盛土 粒子は細く、粘質は弱い。しまりは強い。
 10 にふい黄褐色 (Hue10YR 5/4) 墳丘盛土 粒子が細く、粘質は強い。しまりは強い。
 9 にふい黄褐色 (Hue10YR 4/3) 墳丘盛土 しまりが強い。粘質は弱い。石列にかんている層で、墳丘盛土である。版築の始まりの層と考えられる。南側壁面土層図の51に対応。
 8 暗褐色 (Hue10YR 3/2) 盛土流土 粒子は細かい、粘質は弱い。大きい礫を含む。
 7 にふい黄褐色 (Hue10YR 4/3) 墳丘盛土 しまりややあり、粘質は弱い。墳丘盛土である。南側壁面土層図の41に対応。
 6 黒褐色 (Hue10YR 3/1) 盛土流土 しまりややあり、粘質はない。全体的ににふい黄褐色(Hue10YR4/3)を含む層で黄褐色土は固く粘質はない。南側壁面土層図の31に対応。
 5 暗褐色 (Hue10YR 2/2) 盛土流土 粒子は細かい、粘質は弱い。大きい礫を含む。
 4 にふい黄褐色 (Hue10YR 4/3) 墳丘盛土 しまりややあり、粘質は弱い。墳丘盛土である。南側壁面土層図の41に対応。
 3 黒褐色 (Hue10YR 3/2) 盛土流土 粒子は細かい、粘質は弱い。大きい礫を含む。
 2 黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) 攪乱層
 1 黒褐色 (Hue7.5YR 3/2) 表土層 粒子は細かい、粘質は弱い、しまりはなく、少し粘質あり。

第 37 図 鷹塚 9 トレンチ平面図・土層断面図 (1/60)



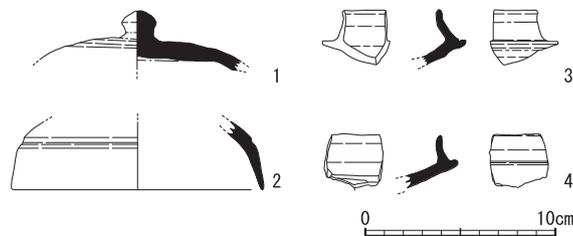
第38図 鷹塚6～9トレンチ配置図(1/80)

鷹塚 6～9 トレンチのまとめ (第 38 図)

墳丘北西側に設定した 6～9 の調査区より、それぞれ墳端が確認された。検出した墳端と各墳端を結ぶ想定ラインとを結ぶと (第 38 図)、8 トレンチ付近で直角とはならないが鈍角の隅角を呈しており、方墳であることがわかる。また、墳端外側の周溝については、対岸の立ち上がりを確認できなかった。対岸の立ち上がりが唯一確認できた 5 トレンチでも、墳端から 7 m 以上外側であるため、鷹塚古墳の周溝については、尾根から墳丘基底を削りだすための遺構という性格の方が強いと考えられる。

鷹塚表採遺物 (第 39 図)

第 39 図 1～4 は鷹塚古墳表採遺物である。1 は杯蓋である。ツマミを有する天井部のみ残存する。調整は内外面とも回転ナデを施し、外面には自然釉が付着する。外面は灰黄褐色、内面は褐灰色をしており、焼成は良好である。2 は杯蓋である。天井部を欠く。口縁端部は段がなく、丸い。外面調整は、口縁部に回転ナデを施した後、上位に沈線を 1 条施す。沈線より上はヘラケズリを施している。内面調整は、回転ナデである。内外面とも褐灰色で、焼成は良好である。3 は杯身である。口縁部から体部上位までの小片である。口縁部は立ち上がりが長い。口縁端部は段がなく、丸い。調整は、内外面とも回転ナデである。外面は褐灰色、内面は灰色で、焼成は良好である。4 は杯身である。口縁部から体部上位までの小片である。口縁端部は段がなく、丸い。受け部の突出が弱く、厚い。調整は内外面とも回転ナデが施してあり、外面の受け端部から体部にかけて自然釉がある。



第 39 図 鷹塚古墳表採遺物 (1/4)

表3 鷹塚古墳出土土器観察表

挿図番号	調査区名	遺構	種別	器種	法量				調整		胎土	焼成	色調		備考
					口径	胴部径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第24図1	TTK 1Tr		須恵	坏蓋				2.4	回転ナデ・沈線	回転ナデ	B	良好	黒色	灰色	
第24図2	TTK 1Tr	北側6層、8層、14層	須恵	坏蓋	(11.6)			3.3	回転ナデ・ヘラケズリ	回転ナデ	B	良好	暗灰色	褐灰色	
第24図3	TTK 1Tr	最下層 石列下トレンチ北東	須恵	坏身		(12.8)		2.5	回転ナデ・ヘラケズリ	回転ナデ	B	良好	黒褐色	灰色	
第24図4	TTK 1Tr		須恵	坏身	(14.4)			3.65	回転ナデ	回転ナデ	BD	良好	灰色	黒褐色	
第24図5	TTK 1Tr		須恵	坏身	(13)	(15.4)		3.45	ヘラケズリ回転ナデ	回転ナデ	B	良好	黄灰色	褐灰色	
第24図6	TTK 1Tr	テラス部一括/	須恵	坏身	(12.2)			2.5	回転ナデ	回転ナデ	B	良好	黄灰色	灰オリーブ色	
第24図7	TTK 1Tr	テラス面	須恵	坏身	(12.2)	(15)		3.1	回転ナデ	回転ナデ	B	良好	灰白色	暗灰黄色	
第24図8	TTK 1Tr		須恵	高坏	(11.6)	(13.8)		4.2	回転ナデ・ヘラケズリ	回転ナデ	B	良好	黄灰色	灰色	
第24図9	TTK 1Tr		須恵	高坏	(14.5)		(8.5)	13.3	回転ナデ・ケズリ・沈線	回転ナデ・シボリ	BE	良好	褐灰色	黄灰色	3方向2段スカシ
第24図10	TTK 1Tr		須恵	高坏			18.5	21.7	回転ナデ・ヘラケズリ・ヘラ記号・沈線	回転ナデ・シボリ	BE	良好	黄灰色	灰黄色	3方向2段スカシ
第24図11	TTK 1Tr		須恵	高坏			15.75	14.1	回転ナデ	回転ナデ	BE	良好	灰色	黄灰色	3方向2段スカシ
第24図12	TTK 1Tr		須恵	高坏	(6.5)		(9.9)	10.4	回転ナデ・沈線	回転ナデ・シボリ	BE	良好	褐灰	灰オリーブ色	2方向2段スカシ
第24図13	TTK 1Tr		須恵	高坏			(17.6)	1.95	回転ナデ	回転ナデ	BEI	良好	褐灰色	黄灰色	2方向2段スカシ
第29図1	TTK 3Tr	表土(天井石直上)	須恵	坏蓋	(11)			2.4	回転ナデ・ヘラケズリ	回転ナデ	EF	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
第29図2	TTK 3Tr	表土(天井石直上)	須恵	坏蓋	(12.8)	(13)		2.7	回転ナデ	回転ナデ	B	良好	褐灰色	褐灰色	
第29図3	TTK 3Tr	羨道内	須恵	高坏	(5.2)	(13.4)		1.8	回転ナデ	回転ナデ	E	良好	暗灰黄色	褐灰色	
第29図4	TTK 3Tr	羨道内	須恵	高坏		(3.1)		6	回転ナデ・沈線・スカシ	シボリ	CE	良好	暗灰色	暗灰色	3方向2段スカシ 一部に赤色顔料
第29図5	TTK 3Tr	羨道内	須恵	高坏			(11)	1.1	回転ナデ	回転ナデ	E	良好	褐灰色	褐灰色	一部に赤色顔料
第29図6	TTK 3Tr	羨道部	須恵	罎	(10)			4.2	回転ナデ・カキ目後刺突文・沈線	回転ナデ	E	良好	黄灰色	黄灰色	外面に 掻目文
第29図7	TTK 3Tr	羨道部	須恵	器台				4.9	回転ココナデ・刺突文・沈線	回転ナデ	B	良好	褐灰色	褐灰色	
第29図8	TTK 3Tr	羨道内	須恵	器台		(13.2)		5.3	回転ナデ・カキ目後沈線	回転ナデ	BE	良好	褐灰色	灰色	三角スカシ
第29図9	TTK 3Tr	羨道内	須恵	脚付長頸壺					回転ナデ・沈線	回転ナデ	ABE	良好	褐灰色	黄灰色	
第29図10	TTK 3Tr	羨道内	須恵	脚付長頸壺	(5.2)			5.8	回転ナデ・沈線・刺突文	回転ナデ・シボリ	BCE	良好	灰色	灰色	
第29図11	TTK 3Tr	羨道内	須恵	脚付長頸壺	(5.2)	(16.5)		11.3	回転ナデ・ヘラケズリ	回転ナデ・シボリ	BCE	良好	灰色	灰色	
第29図12	TTK 3Tr	羨道内	須恵	脚付長頸壺		(11.6)		2.2	回転ナデ・沈線	回転ナデ	BCE	良好	灰色	灰色	
第29図13	TTK 3Tr	検出時	須恵	大甕	(46)		(16.4)	9.6	回転ナデ・沈線	回転ナデ	AE	良好	黄灰色	褐灰色	
第29図14	TTK 3Tr	検出時	須恵	大甕		(34.8)		7.2	カキ目後ナデ	カキ目後ナデ アテ具痕	BCE	良好	灰色	褐灰色	
第34図1	TTK 7Tr		土師		(17.2)	(17.4)		4	ミガキ	ミガキ	AB	良好	にぶい赤褐色	赤褐色	
第36図1	TTK 9Tr	盛土ブロック土(周溝部)	須恵	坏身	(12.5)			4.2	回転ナデ・ヘラケズリ	回転ナデ	BE	良好	褐灰色	褐灰色	
第39図1	TTK表探		須恵	坏蓋					回転ナデ	回転ナデ	CE	良好	灰黄褐色	褐灰色	
第39図2	TTK表探		須恵	坏蓋	(13.2)			3.6	回転ナデ・ヘラケズリ・沈線	回転ナデ	B	良好	褐灰色	褐灰色	
第39図3	TTK表探		須恵	坏身					回転ナデ	回転ナデ	E	良好	褐灰色	灰色	
第39図4	TTK表探		須恵	坏身				2.8	回転ナデ	回転ナデ	B	良好	褐色	褐灰色	

法量の単位はcm。()書きは、残存と復原を表す。
胎土:A角閃石 B石英 C長石 D白色粒子 E黒色粒子 F輝石

表4 鷹塚古墳出土土馬具観察表

挿図番号	調査区名	遺構	器種	作り	法量			
					全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
第29図15	TTK 3Tr	検出時	木製壺鈴		4.1	1.5	1.3	1.16
第29図16	TTK 3Tr	検出時	木製壺鈴		4.4	1.75	0.3	7.03
第29図17	TTK 3Tr	検出時	壺鈴	鉄具	6.5	1.8	0.5	15.08

表5 鷹塚古墳出土装身具観察表①

挿図番号	調査区名	遺構	器種	作り	外径(cm)	断面径(cm)	重量(g)
第29図18	TTK 3Tr	検出時	耳環	銅地銀張	3.05×2.61	0.875×0.77	13.83

表6 鷹塚古墳出土装身具観察表②

挿図番号	調査区	遺構	種類	材質	法量			
					長径(cm)	短径(cm)	孔径(cm)	重量(g)
第29図19	TTK 3Tr	石室内埋土中	小玉	ガラス	0.35	0.15	0.1	0.03

小結（第 40 図）

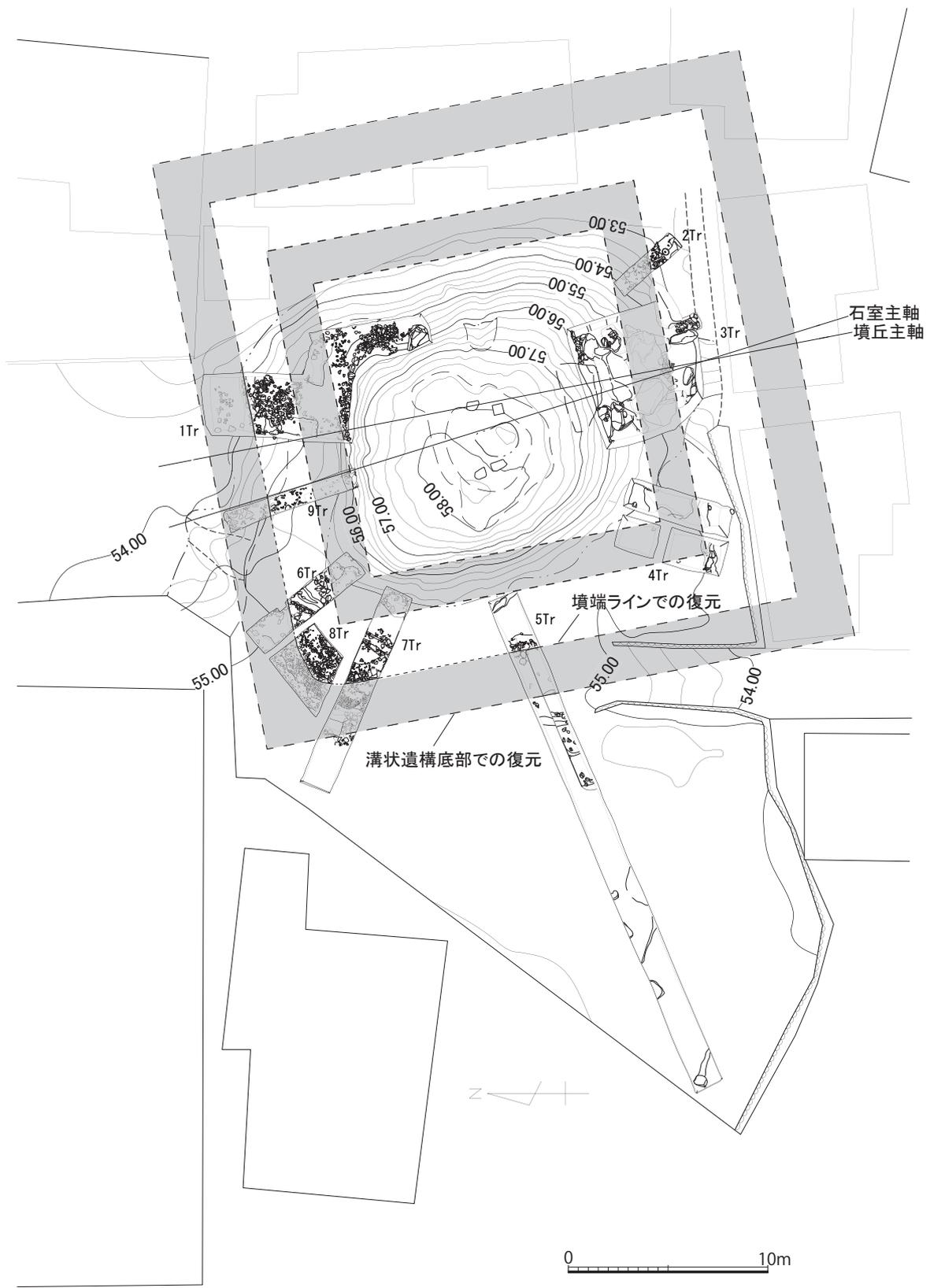
鷹塚古墳の調査については、当初円墳として調査区を設定し実施してきたが、5 トレンチと 7 トレンチで検出した墳端の列石どうしを結ぶと直線状になることから、方墳の可能性を視野に入れた調査区の設定に変更した。その結果、5・6・7・8・9 トレンチより墳端の列石を確認した。また、5 トレンチでは、列石よりも外側に溝状遺構を検出した。この溝状遺構は、他のトレンチで確認できていないが、5 トレンチの状況より、墳端から 4.8 m 外側に溝底部があることから、尾根から墳丘基底部を方形に削り出すためのものであると考えられる。

各調査区で確認した墳端について見ていきたい（第 40 図）。1 トレンチでは、調査区の墳丘側から 5.6 m 程外側で墳丘の立上りを検出した。この墳丘の立上りが墳端となる。5 トレンチでは、墳丘側から約 3 m 外側で、墳端の列石を確認した。この墳端より外側については、溝の底部までは緩やかに下降している。6 トレンチでは、調査区墳丘側より約 4.4 m 外側に墳端の列石を検出した。また、7 トレンチでも、調査区墳丘側より約 5 m 外側で、8 トレンチでは、約 1.8 m 外側で墳端の列石を確認した。9 トレンチでは、調査区の墳丘側から約 4.6 m 外側で墳端の列石を確認した。なお、6～8 トレンチの墳端は、隅丸状コーナーとなっていることから、鷹塚古墳が方墳であると決定づけた調査区である。これら、墳端の列石を結び、主軸上で反転させると 1 辺が 25 m 程の方形となる。しかし、方墳の 1 コーナーしか検出していないため、推測の域は出ないが、第 40 図のように最低でも墳長が 1 辺 25 m × 25 m の方墳になると想定できる。また、5 トレンチで検出した墳端より外側で検出した溝状遺構の墳丘側底部から墳丘主軸までを単純に反転すると、1 辺が 30 m 以上の規模となる。しかし、検出した調査区が 1 ヶ所で墳丘東側の調査を実施していない状況から定かではない。

次に 1・9 トレンチで検出した段築のテラスについて考えたい。すでに想定した墳端ラインを基に、9 トレンチで確認した段築の基底石と、3 トレンチの石室開口部より 2 つ目と 3 つ目の天井石が接する箇所をつなぎ、墳丘主軸で反転復元すると、1 辺が 15 m、幅 2.0 m 程のテラスとなる。

3 トレンチで検出した石室開口部についてみると、羨道部は、側壁の石積みの状況から、西側の側壁が入口側に向かって斜めに積まれていることや、対岸の東側の側壁が同様に斜めに加工されていることから、石室入り口は、これらを結ぶ調査区の墳丘外側から 1.2 m のラインが入口であろう。また、東側の側壁の外側に、1.4 m 程の石材が確認されており、この石材も側壁の一部であると考えると、羨道部の長さが 7.9 m となる。しかし、この石材は、後世に動いた状況が確認されていることや、西側の側壁の外側に石材が確認できなかったことから、羨道の開口部側の端である可能性は低いものの否定できない。つまり、羨道の規模としては、少なくとも長さ 6.5 m（最大長 7.9 m）、幅 2.5 m（最大幅 2.8 m）、入口側の高さ 2.2 m、玄門側の高さ 1.6 m を測ることが今回の調査であきらかになり、大分県内最大の規模を有する羨道部であることが確認された。また、石室主軸については、羨道部の実測図（第 28 図）より、墳丘主軸と同じではなく、墳丘主軸より 6.5° 西側に振っていることを確認した。

築造時期については、1 トレンチで検出した一括遺物より、TK209 型式の古相である。



第40図 鷹塚古墳墳丘復元図 (1/300)



鷹塚古墳1 トレンチ全景



鷹塚古墳1 トレンチ高環出土状況



鷹塚古墳2 トレンチ全景



鷹塚古墳2 トレンチ土層堆積状況



鷹塚古墳3 トレンチ天井石検出状況



鷹塚古墳3 トレンチ完掘状況



鷹塚古墳3 トレンチ羨道付近石材出土状況



鷹塚古墳3 トレンチ羨道部内土層堆積状況



鷹塚古墳3 トレンチ羨道内玄門付近



鷹塚古墳3 トレンチ羨道内玄門前閉塞石付近



鷹塚古墳3 トレンチ羨道内左側壁石積状況



鷹塚古墳3 トレンチ A 面天井石付近土層堆積状況



鷹塚古墳3 トレンチ B 面土層堆積状況



鷹塚古墳4 トレンチ全景



鷹塚古墳4 トレンチ東側完掘状況



鷹塚古墳 5 トレンチ全景



鷹塚古墳 5 トレンチ完掘状況



鷹塚古墳 5 トレンチ墳端根石検出状況



鷹塚古墳 7 トレンチ全景



鷹塚古墳 6～8 トレンチ完掘状況



鷹塚古墳 1・9 トレンチ完掘状況



鷹塚古墳 9 トレンチ段築テラス墳丘側列石検出状況



鷹塚古墳 9 トレンチ墳端根石検出状況



鷹塚古墳 9 トレンチ完掘状況



24-1



24-7



24-13



24-2



24-8



29-1



24-3



24-9



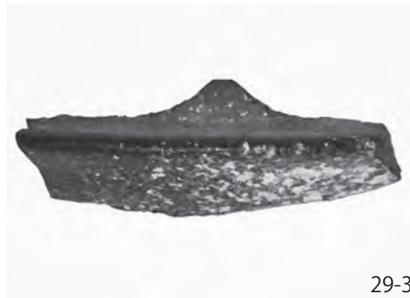
29-2



24-4



24-10



29-3



24-5



24-11



29-4



24-6



24-12



29-5

